

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|-------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|--------------------------------|---------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|------------------|--------------------------|------------------|-----------------------|-------------------------|------|
| 授業科目名：メディア英語 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：山崎由紀 担当形態：単独 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目等（中学校及び高等学校 英語） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ：インターネットの普及により、情報を受け取る場所の地域差は非常に少なくなってきました。しかしながら、その内容については英語での情報が最大の割合を占めるとも言われています。つまり、インターネットによる情報の恩恵を最大に受けるためには、英語による情報収集能力を身につけることが不可欠と言えるでしょう。本講座では「メディア」の中でもとりわけインターネットを重視し、インターネットによって配信される世界中のニュース記事（テキスト）や音声・画像ニュースを教材として、刻々動く社会を体感しながら英語力を身につけることを目指します。様々な情報を取捨選択する能力を身につけることも必要です。授業では、信頼できる新聞社や通信社、テレビ局やラジオ局の報道を教材として使います。またそれらのニュースについての要約や意見を発信する書く力も養います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業の概要：日本から世界を見る視点だけではなく、世界の他の地域、そして国際的に社会を見る視点を養うことがこの授業の最も大きな目標です。この目標の視座に立ち、前期は主に英語圏発信のニュースを教材として取り上げます。政治・経済・文化などのニュースを通し、時事的な話題を理解するための英語力を身につけます。同時に、社会への問題意識を深めながら、日本語・英語を交えてディスカッションも行い、それをもとに英語でまとめる力もつけていきます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：Introduction（以下順不同）</td> <td>第9回：ニュースの要約・オピニオンの英文記述</td> </tr> <tr> <td>第2回：New York Times記事より：米国経済と政治</td> <td>第10回：Guardian記事より：EU圏政治問題</td> </tr> <tr> <td>第3回：Washington Post記事より：米国政治</td> <td>第11回：Guardian記事より：アフリカ・中東圏経済問題</td> </tr> <tr> <td>第4回：Washington Post記事より：米国と国際関係</td> <td>第12回：Financial Times記事より：EU圏経済問題</td> </tr> <tr> <td>第5回：Wall Street Journal記事より：アメリカ社会問題</td> <td>第13回：BBC News記事より：ヨーロッパ社会問題</td> </tr> <tr> <td>第6回：米国大統領の演説（読む）</td> <td>第14回：ABC News記事より：米国社会問題</td> </tr> <tr> <td>第7回：米国大統領の演説（聞く）</td> <td>第15回：ディスカッションとオピニオン記述</td> </tr> <tr> <td>第8回：News and Podcasting</td> <td>定期試験</td> </tr> </table> | | | | 第1回：Introduction（以下順不同） | 第9回：ニュースの要約・オピニオンの英文記述 | 第2回：New York Times記事より：米国経済と政治 | 第10回：Guardian記事より：EU圏政治問題 | 第3回：Washington Post記事より：米国政治 | 第11回：Guardian記事より：アフリカ・中東圏経済問題 | 第4回：Washington Post記事より：米国と国際関係 | 第12回：Financial Times記事より：EU圏経済問題 | 第5回：Wall Street Journal記事より：アメリカ社会問題 | 第13回：BBC News記事より：ヨーロッパ社会問題 | 第6回：米国大統領の演説（読む） | 第14回：ABC News記事より：米国社会問題 | 第7回：米国大統領の演説（聞く） | 第15回：ディスカッションとオピニオン記述 | 第8回：News and Podcasting | 定期試験 |
| 第1回：Introduction（以下順不同） | 第9回：ニュースの要約・オピニオンの英文記述 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回：New York Times記事より：米国経済と政治 | 第10回：Guardian記事より：EU圏政治問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回：Washington Post記事より：米国政治 | 第11回：Guardian記事より：アフリカ・中東圏経済問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回：Washington Post記事より：米国と国際関係 | 第12回：Financial Times記事より：EU圏経済問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回：Wall Street Journal記事より：アメリカ社会問題 | 第13回：BBC News記事より：ヨーロッパ社会問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回：米国大統領の演説（読む） | 第14回：ABC News記事より：米国社会問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回：米国大統領の演説（聞く） | 第15回：ディスカッションとオピニオン記述 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回：News and Podcasting | 定期試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト：授業計画で記した各新聞・雑誌等ニュースソースのWebサイト掲載の記事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書・参考資料等：授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生に対する評価：毎回の授業の中で紹介するニュースを使って、授業前や授業中に仕上げる課題などで評価します。また時事的な英単語や訳出に慣れるため、小テストを随時行います。学期末に、総合評価のための試験を行う予定です。毎回の授業で英文理解などについて確認し、コメントをします。また試験や提出物については、授業内の全体に対するものと、個々に対する両面からフィードバックを行います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|-------------|-----------------------|-------------------------|---------------|---------------------------------|------------------------|---------------------|------------------------------|----------------------------------|-------------------------|-----------------------------|-------------------------|-----------------|---------------------------------|------------------|----------|--------------------------|------|
| 授業科目名： メディア英語2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：山崎由紀 担当形態：単独 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ：インターネットの普及により、情報を受け取る場所の地域差は非常に少なくなってきました。しかしながら、その内容については英語での情報が最大の割合を占めるとも言われています。つまり、インターネットによる情報の恩恵を最大に受けるためには、英語による情報収集能力を身につけることが不可欠と言えるでしょう。本講座では「メディア」の中でもとりわけインターネットを重視し、インターネットによって配信される世界中のニュース記事（テキスト）や音声・画像ニュースを教材として、刻々動く社会を体感しながら英語力を身につけることを目指します。様々な情報を取捨選択する能力を身につけることも必要です。授業では、信頼できる新聞社や通信社、テレビ局やラジオ局の報道を教材として使います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業の概要：日本から世界を見る視点だけではなく、世界の他の地域、そして国際的に社会を見る視点を養うことがこの授業の最も大きな目標です。この目標の視座に立ち、後期は、前期の地域範囲を踏み出し、アジア、中東、アフリカ、中南米、オセアニア、太平洋島嶼国などから発信される英語ニュースも取り上げていきます。また、日本について海外で発信されたニュース、あるいは日本から発信される英語のニュースを取り上げ、身近な社会の問題を英語で表現する力を養います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：Introduction（以下順不同）</td> <td>第9回： 北欧圏の経済問題</td> </tr> <tr> <td>第2回：Japan Times記事より：日本発信の英語ニュース</td> <td>第10回： 環境・非核武装関連国際会議・演説</td> </tr> <tr> <td>第3回：日本に関する海外発信のニュース</td> <td>第11回： HK Phoenix TV：アジアのニュース</td> </tr> <tr> <td>第4回：Al.Jazeera.Net（英語版）記事より：中東関連</td> <td>第12回：新華社通信（英語版）：中国のニュース</td> </tr> <tr> <td>第5回：New York Times記事より：中東関連</td> <td>第13回：米州機構加盟諸国メディア：中南米問題</td> </tr> <tr> <td>第6回：太平洋島嶼国の環境問題</td> <td>第14回：Washington Post：米大統領一般教書演説</td> </tr> <tr> <td>第7回：アジア経済権に関する問題</td> <td>第15回：まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回：イタルタス通信(英語版)：東欧のニュース</td> <td>定期試験</td> </tr> </table> | | | | 第1回：Introduction（以下順不同） | 第9回： 北欧圏の経済問題 | 第2回：Japan Times記事より：日本発信の英語ニュース | 第10回： 環境・非核武装関連国際会議・演説 | 第3回：日本に関する海外発信のニュース | 第11回： HK Phoenix TV：アジアのニュース | 第4回：Al.Jazeera.Net（英語版）記事より：中東関連 | 第12回：新華社通信（英語版）：中国のニュース | 第5回：New York Times記事より：中東関連 | 第13回：米州機構加盟諸国メディア：中南米問題 | 第6回：太平洋島嶼国の環境問題 | 第14回：Washington Post：米大統領一般教書演説 | 第7回：アジア経済権に関する問題 | 第15回：まとめ | 第8回：イタルタス通信(英語版)：東欧のニュース | 定期試験 |
| 第1回：Introduction（以下順不同） | 第9回： 北欧圏の経済問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回：Japan Times記事より：日本発信の英語ニュース | 第10回： 環境・非核武装関連国際会議・演説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回：日本に関する海外発信のニュース | 第11回： HK Phoenix TV：アジアのニュース | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回：Al.Jazeera.Net（英語版）記事より：中東関連 | 第12回：新華社通信（英語版）：中国のニュース | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回：New York Times記事より：中東関連 | 第13回：米州機構加盟諸国メディア：中南米問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回：太平洋島嶼国の環境問題 | 第14回：Washington Post：米大統領一般教書演説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回：アジア経済権に関する問題 | 第15回：まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回：イタルタス通信(英語版)：東欧のニュース | 定期試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト：授業計画で記した各新聞・雑誌等ニュースソースのWebサイト掲載の記事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書・参考資料等：授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生に対する評価：毎回の授業の中で紹介するニュースを使って、授業前や授業中に仕上げる課題などで評価します。また時事的な英単語や訳出に慣れるため、小テストを随時行います。学期末に、総合評価のための試験を行う予定です。毎回の授業で英文理解などについて確認し、コメントをします。また試験や提出物については、授業内の全体に対するものと、個々に対する両面からフィードバックを行います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 言語コミュニケーション論 I | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：中村義実 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 様々なジャンルの英文に向き合い、英語を「読む、書く、聞く、話す」それぞれの基礎力を総合的に養成する。 | | | |
| 授業の概要 現代的息吹の感じられる生き生きとした口語英語、最新の社会情勢を報じるメディア英語等を素材にして、内容に関する議論を交えながら、批判的考察力を持って英文読解に取り組む。思考や感動を通して、自らのアイディアを英語で表現する訓練を行う。 | | | |
| 授業計画 第1回： 英語の学び方：「社会性」をテーマに 第2回： メディア英語：新聞記事を利用した学習法 第3回： メディア英語：ニュース映像を利用した学習法 第4回： メディア英語：感想や思考の表現練習 第5回： 英語の学び方：「創造性」をテーマに 第6回： 口語英語：英語漫画を利用した学習法 第7回： 口語英語：映画を利用した学習法 第8回： 口語英語：感想や思考の表現練習 第9回： 英語の学び方：「主体性」をテーマに 第10回： 短編ストーリー：The Rest of the Storyを読む 第11回： 短編ストーリー：The Rest of the Storyを聞く 第12回： 短編ストーリー：感想や思考の表現練習 第13回： 全体のまとめ：「社会性」をテーマに 第14回： 全体のまとめ：「創造性」をテーマに 第15回： 全体のまとめ：「主体性」をテーマに授業計画 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト 授業にて指示する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 | | | |

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 言語コミュニケーション論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：中村義実 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 様々なジャンルの英文に向き合い、英語を「読む、書く、聞く、話す」それぞれの応用力を総合的に養成する。 | | | |
| 授業の概要 現代的息吹の感じられる生き生きとした口語英語、最新の社会情勢を報じるメディア英語等を素材にして、内容に関する議論を交えながら、批判的考察力を持って英文読解に取り組む。思考や感動を通して、自らのアイディアを英語で表現する訓練を行う。 | | | |
| 授業計画 第1回： 英語の学び方：「社会性」をテーマに 第2回： メディア英語：新聞記事を利用した学習法 第3回： メディア英語：ニュース映像を利用した学習法 第4回： メディア英語：感想や思考の表現練習 第5回： 英語の学び方：「創造性」をテーマに 第6回： 口語英語：英語漫画を利用した学習法 第7回： 口語英語：映画を利用した学習法 第8回： 口語英語：感想や思考の表現練習 第9回： 英語の学び方：「主体性」をテーマに 第10回： 短編ストーリー：The Rest of the Storyを読む 第11回： 短編ストーリー：The Rest of the Storyを聞く 第12回： 短編ストーリー：感想や思考の表現練習 第13回： 全体のまとめ：「社会性」をテーマに 第14回： 全体のまとめ：「創造性」をテーマに 第15回： 全体のまとめ：「主体性」をテーマに授業計画 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト 授業にて指示する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 | | | |

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名：文化交流 論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：オムラティグ ロサ 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・異文化理解 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「文化交流論 I」は「文化」という概念を様々な立場で分析する。考古学、人類文化学、社会学、精神分析学、哲学などの分野で文化論について理論的議論を学ぶ。目標は学生が（1）「文化」という概念の複雑さを理解して、文化の還元主義、本質主義、普遍主義などの哲学的論争に対する意識を高め、異文化コミュニケーションの現状と課題を理解すること、（2）文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解すること、（3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することである。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>授業で扱うテーマについて概説した後考古学、人類文化学、社会学、精神分析学、哲学などの観点からの代表的な理論を英語で、あるいは日本語とのバイリンガルのテキストで抜粋を熟読し、ディスカッションを行う。ヴィア・ゴードン・チャイルド、エドワード・T・ホール、エミール・デュルケム、ジークムント・フロイト、スラヴォイ・ジジェクなどの主要な思想家の作品から抜粋を扱う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに：文化とは何か？</p> <p>第2回：文化と生物学 [デズモンド・モリス]</p> <p>第3回：文化と考古学 [ゴードン・チャイルド]</p> <p>第4回：文化と人類学 [クリフォード・ギアツ]</p> <p>第5回：文化と社会学 [エミール・デュルケム]</p> <p>第6回：文化とエスノメソドロロジー [ハロルド・ガーフィンケル]</p> <p>第7回：文化と言語 [スティーブン・ピンカー]</p> <p>第8回：文化と政治 [ベネディクト・アンダーソン]</p> <p>第9回：歴史における文化1 [和辻哲郎]</p> <p>第10回：歴史における文化2 [柄谷行人]</p> <p>第11回：文化と精神分析学1 [ジークムント・フロイト]</p> <p>第12回：文化と精神分析学2 [カール・ユング]</p> <p>第13回：文化と精神分析学3 [ジャック・ラカン]</p> | | | |

第14回：文化交流の将来 [トランスヒューマニズム]

第15回：まとめ

定期試験は行わず、レポートを課す。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。

学生に対する評価

レポート、授業内のディスカッション、小課題を総合して評価する。

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名：文化交流 論 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：オムラティグ ロサ 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・異文化理解 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本文化は数世紀にわたる世界の文化交流の所産でもある。日本史における文化の変化や交流のさまざまな例を検討しながら、世界と日本との文化交流論の広範な問題を吟味する。目標は学生が（１）「文化」という概念の複雑さを理解して、文化の還元主義、本質主義、普遍主義などの哲学的論争に対する意識を高め、異文化コミュニケーションの現状と課題を理解すること、（２）文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解すること、（３）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することである。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>授業で扱うテーマについて概説した後考古学、人類文化学、社会学、精神分析学、哲学などの観点からの代表的な理論を英語で、あるいは日本語とのバイリンガルのテキストで抜粋を読み、ディスカッションを行う。トピックは弥生の農業革命、『古事記』、日本とシルクロード、隠れキリシタン、田沼意次の時代、大塩平八郎の乱、三島事件などを含む。世界における日本の文化交流の例を考えながら、ユヴァル・ハラリ、アラン・バディウ、宇野弘蔵、渋沢栄一、宮本常一、坂口安吾、テオドール・アドルノ、柄谷行人などの文化交流論と関係の深い思想も考える。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：1. はじめ</p> <p>第2回：2. 世界の中で位置づけた弥生の農業革命（ユヴァル・ハラリ）</p> <p>第3回：3. 『古事記』と神話学（ジョゼフ・キャンベル）</p> <p>第4回：4. 日本とシルクロード</p> <p>第5回：5. 室町時代の原始資本主義</p> <p>第6回：6. 隠れキリシタン：宗教と社会と政治</p> <p>第7回：7. 『北越雪譜』</p> <p>第8回：8. 江戸時代の天文学：科学と伝統の摩擦</p> <p>第9回：9. 田沼意次の時代と資本主義</p> <p>第10回：10. 大塩平八郎の乱と原始社会主義</p> <p>第11回：11. 日本の鉄道史：近代化と情報理論</p> <p>第12回：12. 牧野伸頭とヴェルサイユ条約</p> | | | |

第13回：13. グアム・サイパンと大日本帝国

第14回：14. 三島事件と20世紀の近代化の危機

第15回：15. まとめ

定期試験は行わずレポートを課す。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。

学生に対する評価

レポート、授業内のディスカッション、小課題を総合して評価する。

| | | | |
|---|-------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：異文化コミュニケーション論1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・異文化理解 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>グローバル化、バリアフリー化する現代社会で他者と共生するために、「異文化コミュニケーション」に関する知識やスキルの獲得は必須である。本講義はまず「文化」や「コミュニケーション」という我々が何気なく使っている言葉の広がり学びながら、「異/文化/コミュニケーション/論」とは何かを理解することを目指す。学生にはオンラインを含む異文化コミュニケーション実践とその報告を随時求める。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>学期前半では、「文化」、「自文化」、「他文化」、そして「コミュニケーション」といった概念の理解をはかりながら、「異文化コミュニケーション」とは何なのかを考える。小テストを挟み、学期後半は、検討事例としてJ.ズウィック監督『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』(2002)を取り上げ、同作品をみなさんに異文化コミュニケーション論的視点から分析する。また、講義期間中に何らかの異文化コミュニケーションを実践し、その経験についてレポート等で報告した学生には加点する。授業を通して国際的な視点を身につけることを目指す。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション：「文化」、「コミュニケーション」、そして「異」</p> <p>第2回： 異文化コミュニケーション研究誕生の背景</p> <p>第3回： 異文化コミュニケーションの基礎概念 異と文化</p> <p>第4回： 異文化コミュニケーションの基礎概念 コミュニケーション</p> <p>第5回： 異文化コミュニケーションの基礎概念 異文化コミュニケーション研究の特徴</p> <p>第6回： 自己とアイデンティティ エリクソンの時代からの進展</p> <p>第7回： 自己とアイデンティティ 社会的アイデンティティ</p> <p>第8回： 自己とアイデンティティ ステレオタイプと社会的カテゴリー化</p> <p>第9回： 小テスト、レポート進捗報告</p> <p>第10回： 異文化コミュニケーションの障壁への対応 エンパシーとエポケー</p> <p>第11回： 障壁の分析（『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』前半）</p> <p>第12回： 障壁の分析（『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』後半）</p> <p>第13回： 復習</p> <p>第14回： 発表 第一グループ</p> | | | |

第15回： 発表 第二グループ、小テスト

テキスト

山本志都ほか著『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社、2022年

参考書・参考資料等

ジョエル・ズウィック監督『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』(*My Big Fat Greek Wedding*, ワーナー・ブラザーズ, 2002), DVD.

石井敏他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』(有斐閣、2013) 2000円

学生に対する評価

小テストないしはそれに準ずる課題2回(各30%)、期末レポート、発表(40%)を原則として、総合的に評価する。フィードバックはテスト、提出物の返却をもっておこなう。

| | | | |
|---|-------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：異文化コミュニケーション論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・異文化理解 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>グローバル化、バリア・フリー化する現代社会で他者と共生するために、「異文化コミュニケーション」に関する知識やスキルの獲得は必須です。本講義は「文化」や「コミュニケーション」という言葉の広がり学びながら、「異/文化/コミュニケーション/論」とは何かを理解することを目指します。学生には積極的な異文化コミュニケーション実践とその報告を随時求めます。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>異文化コミュニケーション論1で学んだ内容を整理したうえで、深層文化、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、カルチャーショックなどについて、適宜実習を取り入れながら学ぶ。学期中には、石井裕也監督『バンクーバーの朝日』(2014)を鑑賞し、異文化コミュニケーションの難しさを再確認する。また、講義期間中に何らかの異文化コミュニケーションを実践し、その経験についてレポート等で報告した学生には加点する。授業や異文化交流の実施を通して国際的視点を身につけ、コミュニケーション能力を高めたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション</p> <p>第2回： 深層文化 文化モデル</p> <p>第3回： 深層文化 基本価値志向</p> <p>第4回： 深層文化 思考方法</p> <p>第5回： 言語コミュニケーションとはなにか</p> <p>第6回： 言語コミュニケーション コミュニケーションスタイルとアサーティブネス</p> <p>第7回： 言語コミュニケーション シャイネスとコミュニケーション不安</p> <p>第8回： 小テスト、『バンクーバーの朝日』前半分析</p> <p>第9回： 言語コミュニケーション フォーマルとインフォーマル</p> <p>第10回： 非言語コミュニケーション 表情、服装など</p> <p>第11回： 非言語コミュニケーション アイコンタクト、ジェスチャー</p> <p>第12回： 非言語コミュニケーション タッチング、時間と空間</p> <p>第13回： カルチャーショック</p> <p>第14回： 発表</p> | | | |

第15回： 小テスト、『バンクーバーの朝日』後半分析

テキスト

山本志都ほか著『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社、2022年

参考書・参考資料等

石井敏他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』（有斐閣、2013）2000円

石井裕也監督『バンクーバーの朝日』（フジテレビジョン、2014）

学生に対する評価

小テスト2回（60%）、発表、課題、レポート（40%）で評価する。フィードバックは希望者に対して、テストの達成度やレポートの書き方などについてフィードバックする。全体に対してコメントできる事項については授業を通じてフィードバックする。

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 英語教育学概論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 今井 理恵 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。） | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語教師を目指す学生が将来教壇に立つまでに身につけるべき知見として、日本の中学校・高等学校の学校英語教育に関する知識と技能に関して概観し、英語の教授と学習に関わる諸相（目的論、方法論、教材論、評価論および第2言語習得研究その他の観点）について学び、これについて自主的に深く考えることを目的とする。教科書を読み進める、あるいは教師から講義を一方向的に聴くだけでなく、学生は将来、教師として教壇に立つことを常に意識することが求められる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本授業では、英語教育学の各論（目的論、方法論、授業論、評価論等）をまず概観する。その後、第二言語習得研究から見た英語教育について取り上げる。各授業で、学生は、英語教育学に関わる諸相を学校現場における近年の話題や問題について、自分自身の経験や問題意識として自主的に考え、意見を交換し合いながら進める場面を設ける。また、担当教員は高等学校での実務経験があり、授業で学ぶ理論と現場での経験を関連付けた講義を行う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：日本の英語教育の歴史的経緯</p> <p>第2回：世界の外国語教育、外国語学習の目的</p> <p>第3回：外国語教授法（1）</p> <p>第4回：外国語教授法（2）</p> <p>第5回：日本における指導法の変遷</p> <p>第6回：授業論：授業設計</p> <p>第7回：授業論：授業展開と教師の役割</p> <p>第8回：授業論：授業評価と授業分析</p> <p>第9回：言語スキルと指導技術：リスニング</p> <p>第10回：言語スキルと指導技術：スピーキング</p> <p>第11回：言語スキルと指導技術：ライティング</p> <p>第12回：言語スキルと指導技術：リーディング</p> <p>第13回：第二言語習得研究と英語教育</p> <p>第14回：母語習得と第二言語習得</p> | | | |

| |
|-------------------|
| <p>第15回：学習者要因</p> |
|-------------------|

| |
|-------------|
| <p>テキスト</p> |
|-------------|

| |
|--|
| <p>望月昭彦 編著 (2018) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編・英語編 (平成30年7月)』</p> |
|--|

| |
|------------------|
| <p>参考書・参考資料等</p> |
|------------------|

| |
|--------------------------------------|
| <p>中学校検定教科書 (新潟市内で採用される教科書を使用する)</p> |
|--------------------------------------|

| |
|---|
| <p>加藤茂夫 他 (2020) 『英語科教育実習ハンドブック 第4版』 大修館書店.</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>Richards, J. C., and Schmidt, R. (2002) Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (3rd ed.), Longman.</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>米山朝二 (2011) 『新編 英語教育指導法事典』 研究社.</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>米山朝二 (2002) 『英語教育：実践から理論へ』 松柏社.</p> |
|--|

| |
|-------------------------|
| <p>月刊誌『英語教育』 大修館書店.</p> |
|-------------------------|

| |
|-----------------|
| <p>学生に対する評価</p> |
|-----------------|

| |
|---------------------------|
| <p>課題、発表、テスト等を総合して行う。</p> |
|---------------------------|

| |
|--|
| <p>課題提出：40%、授業への参加態度・意欲：20%、試験：40%</p> |
|--|

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 英語教材研究論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 今井 理恵 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。） | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、どのような材料を使用して英語を教えたらいのか、という「教材論」の観点から、特に日本人の中学生を対象とした英語教材の作成を試みる。受講者は、言語材料（音声、文法、語彙、題材等）について、学習指導要領の内容をきちんと理解した上で、中学生に適切な教材を実際に作成することが求められる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>はじめに、学習指導要領の内容について、「英語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）」および「教材選定の観点」の部分を中心に取り上げ、その後で、現在使用されている文部科学省検定済教科書の分析を行う。受講生は、検定済教科書の問題点を踏まえた上で、中学生向けの英語教材の作成を個人およびグループで行い、それを発表する。また、それらをレポートにまとめて提出する。※ 担当教員は高等学校での実務経験があり、授業で学ぶ理論と現場での経験を関連付けた講義を行う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：学習指導要領について－総論</p> <p>第3回：学習指導要領（中学校・外国語編）について（1）－音声</p> <p>第4回：学習指導要領（中学校・外国語編）について（2）－文法・文構造</p> <p>第5回：学習指導要領（中学校・外国語編）について（3）－語彙</p> <p>第6回：学習指導要領（中学校・外国語編）について（4）－題材</p> <p>第7回：中学校用の検定済教科書（英語）の分析（1）－New Crown</p> <p>第8回：中学校用の検定済教科書（英語）の分析（2）－Sunshine</p> <p>第9回：中学校用の検定済教科書（英語）の分析（3）－Horizon</p> <p>第10回：中学生用の英語教材の作成（1）－文法・文構造</p> <p>第11回：中学生用の英語教材の作成（2）－題材</p> <p>第12回：中学生用の英語教材の作成（3）－音声・語彙</p> <p>第13回：中学生用の英語教材の作成（4）－コミュニケーション活動・まとめ</p> <p>第14回：作成した教材の発表および問題点の検討</p> <p>第15回：まとめ－よりよい教材とは</p> | | | |

テキスト

望月昭彦 編著 (2018) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』.

文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編・英語編 (平成30年7月)』

参考書・参考資料等

中学校検定教科書 (新潟市内で採用される教科書を使用する)

加藤茂夫 他 (2020) 『英語科教育実習ハンドブック 第4版』 大修館書店.

Richards, J. C., and Schmidt, R. (2002) Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (3rd ed.), Longman.

米山朝二 (2011) 『新編 英語教育指導法事典』 研究社.

米山朝二 (2002) 『英語教育：実践から理論へ』 松柏社.

月刊誌『英語教育』大修館書店.

学生に対する評価

課題、発表、テスト等を総合して行う。

課題提出：40%、授業への参加態度・意欲：20%、試験：40%

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 英語科教科教育法 1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 今井 理恵 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>2年次の「英語教育学概論」や「教材研究」に続いて、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する基本的な知識と技能を身につける。また、教育実習に備えて、英語授業で用いる教材の研究、指導案の作成、模擬授業を通して、英語授業を一通り行える授業指導力と学習評価の基礎を身につける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>1. 英語の各技能及び領域統合型の言語活動の指導技術に関する基本的な力（知識と技能）を身につけるために、英語授業で用いる教材の研究および学習指導案の作成、模擬授業を実施する。2. 学習到達目標に基づく評価の在り方，観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価基準と基準の設定方法，パフォーマンス評価について、教材研究、指導案作成、模擬授業を通して理解する。3. 小・中・高等学校の連携やALT等とのTTの方法について理解する。4. 英語科における異文化理解に関する指導について学ぶ。※担当教員は高等学校での実務経験があり、授業で学ぶ理論と現場での経験を関連付けた講義を行う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： Learners: Reasons for learning, Different contexts for learning (学習者：学習する理由、異なる学習の文脈)</p> <p>第2回： Learners: Learner differences, The importance of student motivation, Responsibility for learning (学習者：学習者の違い、学習意欲の重要性、学習に対する責任)</p> <p>第3回： Teachers: Describing good teachers, Why teachers are in class, Rapport (教師：良い教師の特徴、教師が授業にいる理由、ラポール [信頼関係])</p> <p>第4回： Teachers: Teacher tasks, Teacher skills, Teacher knowledge, Art or science? (教師：教師の役割、教師の技能、教師の知識、芸術か科学か)</p> <p>第5回： Managing the classroom: Classroom management, The teacher in the classroom, Using the voice, Talking to students (教室運営：教室管理、教室での教師の立ち位置、声の使い方、学生との話し方)</p> <p>第6回： Managing the classroom: Giving instructions, Student talk and teacher talk, Using the L1, Creating lesson stages (教室運営：指示の出し方、学生の発話と教師の発話、母語の使用、授業の段階づくり)</p> | | | |

| |
|--|
| <p>第7回： Describing learning and teaching: Children and language, Acquisition and learning (学習と教授の説明：子どもと言語、習得と学習)</p> <p>第8回： Describing learning and teaching: Different times, different methods, Elements for successful language learning (学習と教授の説明：時代ごとの異なる教授法、成功する言語学習の要素)</p> <p>第9回： Describing language (言語の記述)</p> <p>第10回： Teaching the language system (言語体系の指導)</p> <p>第11回： Teaching the language system (言語体系の指導)</p> <p>第12回： Teaching reading (リーディングの指導)</p> <p>第13回： Teaching writing (ライティングの指導)</p> <p>第14回： Teaching speaking (スピーキングの指導)</p> <p>第15回： Teaching listening (リスニングの指導)</p> |
| <p>テキスト</p> <p>Harmer, J. (2007) How to Teach English new edition.</p> <p>文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編〈平成29年7月〉』</p> <p>文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編・英語編〈平成30年7月〉』</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校検定教科書 (新潟市内で採用される教科書を使用する)</p> <p>加藤茂夫 他 (2020) 『英語科教育実習ハンドブック 第4版』 大修館書店</p> <p>Richards, J. C., and Schmidt, R. (2002) Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (3rd ed.), Longman.</p> <p>米山朝二 (2011) 『新編 英語教育指導法事典』 研究社</p> <p>米山朝二 (2002) 『英語教育：実践から理論へ』 松柏社</p> <p>月刊誌『英語教育』大修館書店</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>課題、発表、テスト等を総合して行う。課題提出：40%、授業への参加態度・意欲：20%、試験：40%の割合で評価する。</p> |

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 英語科教科教育法 2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 今井 理恵 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。） | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>2年次の「英語教育学概論」「教材研究」及び3年次前期の「英語科教育法1」に引き続き、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する実践的な知識と技能を身につける。また、教育実習に備えて、英語授業で用いる教材の研究、指導案の作成、模擬授業を通して、英語授業の様々な場面に対応するための実践的な授業指導力と学習評価を身につける</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の各技能及び領域統合型の言語活動の指導技術に関する発展的な力（知識と技能）を身につけるために、英語授業で用いる教材の研究および学習指導案の作成、模擬授業を実施する。 学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価基準と基準の設定方法、パフォーマンス評価について、教材研究、指導案作成、模擬授業を通して理解する。 小・中・高等学校の連携やALT等とのTTの方法について理解する。 英語科における異文化理解に関する指導について学ぶ。※ 担当教員は高等学校での実務経験があり、授業で学ぶ理論と現場での経験を関連付けた講義を行う。 | | | |
| <p>第1回： Using course books （教科書の活用）</p> <p>第2回： Planning lessons （授業計画の立て方）</p> <p>第3回： Testing (1) （テスト [その1]）</p> <p>第4回： Testing (2) （テスト [その2]）</p> <p>第5回： 授業のための教材研究の方法</p> <p>第6回： 学習指導案の作成と授業の展開（1）－中学校</p> <p>第7回： 学習指導案の作成と授業の展開（2）－高等学校</p> <p>第8回： 授業指導の具体例（DVDによる授業研究）－中学校</p> <p>第9回： 授業指導の具体例（DVDによる授業研究）－高等学校</p> <p>第10回： 学生による模擬授業（1）－中学校1、2年生</p> <p>第11回： 学生による模擬授業（2）－中学校3年生</p> <p>第12回： 学生による模擬授業（3）－高校</p> | | | |

第13回：5領域の実際的指導法と評価－模擬授業を踏まえて

第14回：教育機器の利用法

第15回：ALTとティーム・ティーチング

テキスト

Harmer, J. (2007) How to Teach English new edition.

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編〈平成29年7月〉』

文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編〈平成30年7月〉』

参考書・参考資料等

中学校検定教科書(新潟市内で採用される教科書を使用する)

加藤茂夫 他 (2020) 『英語科教育実習ハンドブック 第4版』 大修館書店

Richards, J. C., and Schmidt, R. (2002) Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (3rd ed.), Longman.

米山朝二 (2011) 『新編 英語教育指導法事典』 研究社.

米山朝二 (2002) 『英語教育：実践から理論へ』 松柏社.

月刊誌『英語教育』大修館書店

学生に対する評価

課題、発表、テスト等を総合して行う。

課題提出：40%、授業への参加態度・意欲：20%、試験：40%

| | | | |
|--|----------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名： 教育活動 アクティブワーク | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 益谷 真 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>1) 資料や収集した情報に基づき、話し合いを通じて、宿泊を含む野外教育の団体活動プログラムを協働して作成する。</p> <p>2) 宿泊を含む生活スケジュールの中で作成したプログラムを実施し、仲間とのコミュニケーションを齟齬なく取り、適切な状況判断と臨機応変な対応ができるリーダーシップを発揮する。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>学士力と社会人基礎力を向上させ、リーダーシップを養うために、宿泊を含む野外教育の団体活動プログラムを学生同士の相談で作成し、報告・連絡・相談を意識的に行って計画を実施し、繰り返し省察することで、集団活動を創出する技能を高め、安全や環境に関する教育プログラムを運営する管理者としての責任について理解を深める。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| <p>2泊3日の宿泊研修を1単位分の学修とし、その準備のために計8回の授業を1単位分に充てる。</p> <p>第1回：宿泊研修と野外活動の概要と社会教育施設（青少年自然の家）の利用情報</p> <p>第2回：社会人基礎力とプロジェクト・チームの編成</p> <p>第3回：野外活動と教育プログラムのねらい</p> <p>第4回：全体のプログラムの編成と調整</p> <p>第5回：団体行動の係と責任範囲、リスク管理</p> <p>第6回：イニシアティブとリーダーシップ</p> <p>第7回：チームワークと現場での判断、報告・連絡・相談の落とし穴</p> <p>第8回：現地地下見と実踏報告と最終調整と準備状況の確認</p> | | | |
| テキスト | | | |
| 堀 公俊・加留部 貴行 『教育研修ファシリテーター』 日本経済出版社、平成23年 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>星野敏男・金子和正（監修）自然体験活動研究会（編）『野外教育入門シリーズ第1巻 野外教育の理論と実践』 杏林書院、平成24年</p> <p>その他、必要に応じて適宜、紹介する。</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| グループで作成するプログラム案の提出を3割、個人で作成した研修の葉の提出を1割、全 | | | |

員での相互評価を2割、宿泊研修の終了後に個人で作成する振り返りレポートを4割の配分で総合的に評価する。

| | | | |
|--|---|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 道徳教育指導論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：中野啓明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目（高等学校 英語、高等学校 公民及び地理 歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における道徳教育及び「特別の教科 道徳」（道徳科）に関する目標・内容・方法・評価について理解する。</p> <p>2. 道徳教育と道徳授業に関する諸理論と指導方法を理解し、道徳科の授業に関する基礎的な指導力を習得する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における目標・内容・方法・評価をもとに、道徳教育と道徳授業の理論と実践を概説する。これらの学習内容をもとに、後半では道徳科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことをとおして、実践的な指導力の習得を目指す。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： 道徳・道徳教育とは何か</p> <p>第2回： 全面主義道徳</p> <p>第3回： 道徳教育の目標構造</p> <p>第4回： 「特別の教科 道徳」（道徳科）の目標・内容・方法・評価</p> <p>第5回： 道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画</p> <p>第6回： 道徳授業の理論と実践① ー道徳性の発達段階論ー</p> <p>第7回： 道徳授業の理論と実践② ーSST理論に基づいた役割演技ー</p> <p>第8回： 道徳授業の理論と実践③ ー価値明確化理論ー</p> <p>第9回： 道徳授業の理論と実践④ ーケアリング論ー</p> <p>第10回： 道徳授業の課題ー道徳科における教材、発問、指示の検討ー</p> <p>第11回： 道徳科学習指導案の作成① ー指導案の構想ー</p> <p>第12回： 道徳科学習指導案の作成② ーグループによる指導案の検討ー</p> <p>第13回： 模擬授業① ー模擬授業の実施と検討 第1回ー</p> <p>第14回： 模擬授業② ー模擬授業の実施と検討 第2回ー</p> <p>第15回： 道徳形成の課題</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト | | | |

貝塚茂樹・関根明伸編著『道徳教育を学ぶための重要項目100』（教育出版）

『中学校学習指導要領解説 道徳編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

小柳正司編著『道徳教育の基礎と応用－生き生きと学ぶ道徳の教育－』（あいり出版）

学生に対する評価

定期試験70%、模擬授業20%、学習態度10%の比率で評価する。

| | | | |
|---|-------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 日本国憲法1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 日本国憲法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 受講生が、日本国憲法が定めるこの国の形とはどのようなものなのかを理解することが出来るようになることが到達目標である。統治機構の理解がテーマである。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>国家によって制定される法は、私達の社会生活の正式なルールである。このルールがあまりにも厳しすぎれば、私たちの社会は息苦しくなり、一方あまりにも緩やかなルールでありすぎれば、社会は統制を失い破綻する可能性もある。そのため国家は法を制定する際、これが社会にとって適切なものであるようにしなくてはならず、適切さを欠いた場合、日本国憲法に違反しているとの評価を下されることがある。このように日本国憲法は、法の上に立つものであり、国の治め方に関する根本的な仕組みを定めた最高のルールであるといえる。</p> <p>本講義では、日本国憲法を頂点とした日本の国内法に関する枠組みを学んだ後、日本国憲法がこの国のかたちをどのように定めているのかについて理解を深めていきたい。講義では、できるだけ具体的な事例を用いながら、未解決の社会問題の本質に触れるつもりである。授業を通じて社会における法の役割や、政治問題などに関心をもってもらえる機会を提供できれば幸いである。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：法と憲法、憲法の分類、立憲主義 | | | |
| 第2回：法の分類とそれぞれの役割（法と法律） | | | |
| 第3回：日本国憲法の基本原理 | | | |
| 第4回：国民主権、象徴天皇制 | | | |
| 第5回：三権分立 | | | |
| 第6回：司法権－裁判員制度 | | | |
| 第7回：司法権－司法権とは？ | | | |
| 第8回：司法権－裁判の公開、司法権の限界など | | | |
| 第9回：立法権－国会と代表民主制 | | | |
| 第10回：立法権－国会と二院制 | | | |
| 第11回：立法権－国会の権能など | | | |
| 第12回：行政権－内閣と行政権 | | | |

第13回：行政権－内閣の権能

第14回：行政権－議院内閣制・政令など

第15回：行政権－首相公選制とは

定期試験

テキスト

初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門（第6版）』有斐閣、2020年

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|---|-------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 日本国憲法2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 日本国憲法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>受講生が、日本国憲法が定めるこの国の形とはどのようなものなのかを理解することが出来るようになることが到達目標である。統治機構（地方自治など）と人権保障が学びの中心になる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義では、まず日本国憲法が定める統治の仕組みを学んだうえで、基本的人権の保障を学ぶ。基本的人権の保障は、市民社会が成立する長い過程で、人々が戦いながら獲得してきたものである。このように獲得された人権保障の考え方を取り入れた日本国憲法の個別具体的な人権規定について学んでいきたい。その際、相互の異なる人権が衝突し、一方の人権が制約される場合があり、そこで日本国憲法を始めとする日本の国内法がどのような調整をしているのかについても検討する。講義を通じて、人権と道徳の違い、人権は優しさといった曖昧な概念ではない、人権の性質として対国家性があるなどを理解できれば幸いである。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：地方自治—民主主義の学校、地方自治の本旨</p> <p>第2回：地方自治—地方公共団体、条例</p> <p>第3回：地方自治—直接請求と住民投票</p> <p>第4回：憲法訴訟—裁判所の役割</p> <p>第5回：憲法訴訟—違憲審査制、違憲審査基準など</p> <p>第6回：近代人権思想とその現代的展開</p> <p>第7回：日本国憲法が定める人権と分類</p> <p>第8回：人権と日本国憲法—裁判的救済、公共の福祉など</p> <p>第9回：包括的基本権—幸福追求権</p> <p>第10回：包括的基本権—法の下での平等(1)</p> <p>第11回：包括的基本権—法の下での平等(2)</p> <p>第12回：消極的権利—精神的自由(1)</p> <p>第13回：消極的権利—精神的自由(2)</p> <p>第14回：積極的権利—社会権(1)</p> <p>第15回：積極的権利—社会権(2)</p> | | | |

定期試験

テキスト

初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門（第6版）』有斐閣、2020年

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|---|------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：スポーツ 実習 1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名： 松浦 進二 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろいろなスポーツ種目の実践を通して楽しくゲームができるように、ルールを理解し、技術を身につける。 2. 基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかる。 3. 生涯スポーツとして生活の中に身体運動を取り入れて、健康を自己管理できる実践力を身につける。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>いろいろな身体運動やスポーツ種目の実践を通して、基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかるとともに、生涯スポーツとして日常生活に身体運動を積極的に取り入れ、自分自身で健康を管理していける実践力の育成を目指したい。実施場所については、晴天の場合には屋外グラウンド、雨天の場合には体育館で行う。</p> <p>なお、テニスコートを使用する時はテニスシューズを、体育館を使用する時は体育館シューズを必ず着用すること。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、健康増進のための身体運動</p> <p>第2回：体組成の測定と解説、トレーニングの原理、原則、トレーニングマシン使用に関する説明と体験</p> <p>第3回：ソフトボール競技の特徴と基本的ルール、キャッチボール、ゴロの捕球と送球などの基本技術</p> <p>第4回：基本技術の練習、個人ノック、トスバッティング</p> <p>第5回：基本技術の練習、守備位置の確認、ゲーム</p> <p>第6回：基本技術の練習、ゲーム</p> <p>第7回：フットボールの楽しさと健康増進のための身体運動</p> <p>第8回：パスの練習とシュート練習</p> <p>第9回：ゲーム練習（10分）</p> <p>第10回：テニスの楽しさと健康増進に対する有効性、ラケットの握り方と振り方、ボレーアンドボレー、ショートラリー</p> <p>第11回：ボレーアンドボレー、ショートラリー、ボレーアンドストローク</p> | | | |

第12回：グランドストローク、サーブ練習

第13回：試合方法と審判の仕方、グランドストローク、ダブルスゲーム（3ゲーム先取）

第14回：サーブ、ダブルスゲーム（4ゲーム先取）

第15回：サーブ、ダブルスゲーム（4ゲーム先取）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

出席状況を重視する。4回以上欠席した場合は単位不認定とする。活動状況、技術習熟度を加えて評価する。

| | | | |
|--|------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：スポーツ 実習 2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名： 松浦 進二 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろいろなスポーツ種目の実践を通して、楽しくゲームができるようにルールを理解し、技術を身につける。 2. 基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかる。 3. 生涯スポーツとして生活の中に身体運動を取り入れて、健康を自己管理できる実践力を身につける。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>いろいろな身体運動やスポーツ種目の実践を通して、基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかるとともに、生涯スポーツとして日常生活に身体運動を積極的に取り入れ、自分自身で健康を管理していける実践力の育成を目指したい。</p> <p>なお、必ず体育館シューズを着用すること。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、健康増進に対するバレーボールの有効性</p> <p>第2回：ソフトバレーボールを使用、パス、スパイク、サーブなどの基本練習、チーム練習</p> <p>第3回：ソフトバレーボールを使用、基本練習、バレーボールのルールで試合、ルールと審判</p> <p>第4回：バレーボールを使用、基本練習、パスゲーム、サーブ練習、レシーブからの攻撃、試合</p> <p>第5回：スパイク、ブロックの練習、試合、レシーブ・トス・アタックの確認、試合</p> <p>第6回：バスケットボール基本練習、パス練習、シュート練習</p> <p>第7回：バスケットボールゲーム練習（5～10分）</p> <p>第8回：生涯スポーツとしてのバドミントン、グリップ、ラケットワーク、フットワークの基本、ハイクリア</p> <p>第9回：ハイクリア、フォアハンドとバックハンド、ダブルスゲームのルールと審判</p> <p>第10回：ハイクリア、ドライブ、ドリブンクリア</p> <p>第11回：サービス、スマッシュ、プッシュ、レシーブ</p> <p>第12回：ドロップ、ヘアピン、ダブルスゲーム</p> <p>第13回：スマッシュ、プッシュ、ダブルスゲーム</p> <p>第14回：サービス、カット、ダブルスゲーム</p> <p>第15回：体組成の測定・入学当初測定値との比較、ダブルスゲーム</p> | | | |

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

出席状況を重視する。4回以上欠席した場合は単位不認定とする。活動状況、技術習熟度を加えて評価する。

| | | | |
|---|-------------------------|-------------|--|
| 授業科目名：英語II聴く・話す | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 4単位 | 担当教員名： 大岩彩子、ロッサ・オムラテ ィグ、カルロ・マラシガン、 ブライアン・サウスウィック 担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語の音に慣れ、自ら積極的に英語学習に向き合う姿勢を高める。英語と英語圏のカルチャーを学ぶことを通して多様性について考える。また、授業のトピックを通して様々な状況で対話する方法、説明を求める方法などを学習する。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B2を目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>主にグループワーク、ペアワークの形式で授業を行う。特定の情報を聞き取ったり、必要でない情報を選別したりする方法などの実践的なリスニングスキルの修得を目指す。状況から理解できること、視覚的に分かる事、既に持っている知識などを自身のリソースとして認識し、母語以外の言語を理解する方法を練習する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Celebrations: Introduction</p> <p>第3回：Celebrations: Listening skills</p> <p>第4回：Celebrations: Vocabulary and phrases</p> <p>第5回：Celebrations: Speaking fluency</p> <p>第6回：Project 1 Presentation, Quiz</p> <p>第7回：Once upon a time: Introduction</p> <p>第8回：Once upon a time: Listening skills</p> <p>第9回：Once upon a time: Vocabulary and phrases</p> <p>第10回：Once upon a time: Speaking fluency</p> <p>第11回：Presentation, Quiz</p> <p>第12回：Work: Introduction</p> <p>第13回：Work: Listening skills</p> <p>第14回：Work: Vocabulary and phrases</p> | | | |

第15回 : Work: Speaking fluency
第16回 : Project 2 Presentation, Quiz
第17回 : Stay in touch: Introduction
第18回 : Stay in touch: Listening skills
第19回 : Stay in touch: Vocabulary and phrases
第20回 : Stay in touch: Speaking fluency
第21回 : Project 3 Presentation, Quiz
第22回 : Technology: Introduction
第23回 : Technology: Listening skills
第24回 : Technology: Vocabulary and phrases
第25回 : Technology: Speaking fluency
第26回 : Project 4 Presentation, Quiz
第27回 : Travel: Introduction
第28回 : Travel: Listening skills
第29回 : Travel: Vocabulary and phrases
第30回 : Travel: Speaking fluency
期末試験

テキスト : World Link 2

著者 : Nancy Douglas, James R. Morgan, John Hughes, Susan Stempleski

出版社 : Cengage

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験 (40%)、課題 (30%)、授業への参加と貢献度 (30%)

| | | | |
|--|-------------------------|-------------|---------------------------------------|
| 授業科目名：ドイツ語I 聴く・話す | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： Roland Ebert 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ドイツ語レベルIは初めてドイツ語を学ぶ人向けです。「文法」（週2回の両方とも出席して下さい）、「読む・書く」、「聴く・話す」のコースに分かれています。国際文化学科の学生で、第一外国語にドイツ語を選んだ場合は、すべてのコースを受講します。第二外国語として学ぶ場合は、必ず「文法」を履修登録し、余力があれば、もちろん加えて「読む・書く」、「聴く・話す」も受講して構いません。</p> <p>学習目標は、使いこなせる語彙数が100～200で、独語検定5級の合格レベルです。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>ドイツ語入門の授業です。さまざまな日常的場面を題材に「聴く・話す」の練習を楽しく行い、重要な基礎単語や基本的な表現をマスターしていきます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、ドイツ語とは何か、自己紹介 2. 挨拶、授業で使用する重要な表現、アルファベット入門、自分の名前のつづり 3. 代名詞、動詞 "heißen", "sein", "buchstabieren" の練習、学習した単語の練習 4. 動詞 "kommen" と "wohnen"、グループ練習 5. アルファベットの練習（発音とつづり）、パートナー練習、健康状態を尋ねる 6. 数字入門、学習した動詞の練習、発音練習 7. 国名と国籍、第三者を紹介する 8. 数字と番号、「電話番号」の練習 9. 価格、口頭練習と聞き取り練習 10. 「数字と番号」の応用、1人称と2人称の所有代名詞、冠詞の練習 11. 「国籍」の応用、動詞 "studieren" と "lernen" の練習 12. 動詞 "machen" の練習、時間割と授業科目 13. 世界の言語、動詞 "sprechen" 14. 趣味と余暇、「何をするのが好きですか/一番好きなのは何ですか」 15. 「趣味」の応用練習、期末試験の準備 15. 今学期の復習と期末試験の準備 <p>期末試験</p> | | | |

テキスト

Szenen 1 heute aktuell 三修社

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

期末試験、中間試験、課題の提出、出席点を総合して評価します。

| | | | |
|--|-------------------------|-------------|---------------------------------------|
| 授業科目名：ドイツ語 Ⅱ聴く・話す | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： Roland Ebert 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ドイツ語レベルⅠの後期は、前期の各コースの合格者だけが受講できるようになっています。学習目標は、使いこなせる語彙数が300～400で、独語検定4級の合格レベルです。平易な記述文が理解でき、短い文章が書けるようになります。また、日常生活レベルでのあいさつや対応ができるようになります。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>ドイツ語入門の授業です。</p> <p>さまざまな日常的場面を題材に「聴く・話す」の練習を楽しく行い、重要な基礎単語や基本的な表現をマスターしていきます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、前期期末試験の復習と練習 2. テーマ「趣味」の復習と応用、グループ練習 3. テーマ「数字と曜日」の復習、「ドイツ人と日本人は何をするのが好きですか」のテーマによる"gern"を使ったグループ練習 4. 食事と飲み物について、動詞と "gern", "lieber", "am liebsten" の使い方 5. 「ドイツ料理は好きですか」（ドイツ料理について） 6. 「朝食に何を食べていますか」 7. テーマ「家族と職業」への導入、関連単語と表現 8. 「これが私の家族です。父はバスの運転手です。」、仕事と職業 9. 「私の母はとても優しい!」、人物の描写 10. 「兄弟姉妹はいますか」、「私の父は料理をするのが好きです」、グループ練習 11. 「これは何ですか」、品物と道具 12. 「いいえ、それは新聞ではありません!」、「コンピュータを持っていますか」、動詞 "haben" と4格の名詞 13. 「このジャケットをどう思いますか」、さまざまな品物を描写する 14. 「何が必要だろう」、「それはいくらですか」、聞き取りと口頭練習 15. 今学期の復習と期末試験の準備 <p>期末試験</p> | | | |

テキスト

Szenen 1 heute aktuell 三修社

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

期末試験、中間試験、課題の提出、出席点を総合して評価します。

| | | | |
|--|-------------------------|--------------|----------------------|
| 授業科目名： 中国語Ⅰ聴く・話す | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2.単位 | 担当教員名：姜杰裕 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>中国語レベル1は初めて中国語を学ぶ人向けです。「文法」(週2回の両方とも出席する必要がある)、「読む・書く」、「聴く・話す」のコースに分かれています。</p> <p>「中国語Ⅰ一聴く・話す1」の目標は中国語の発音表記符号の拼音をしっかり覚え、正しく発音ができ、基礎単語500語・日常挨拶語80で、中国語検定準4級の合格レベルです。平易な記述文が理解でき、短い文章が書けるようになります。また、日常生活レベルでの挨拶や対応ができるようになります。</p> | | | |
| <p>授業の概要：この授業では、中国語の発音の基礎一ピンインと声調をしっかり身に付けさせることを最重要点として学んでいきます。教員との一対一の練習及び視聴覚教材を通して、ピンインが正しく聞き取り、発音できるよう練習します。自分や周りについて簡単に紹介できると同時に日常生活中での簡単な挨拶や相槌ができるようにします。中国の文化を紹介し、異文化への理解に繋げ、中国語のコミュニケーション能力を養う基礎を作ります。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：中国語概況・中国語学習の目標立て・単母音</p> <p>第2回：発音1一単母音・声調</p> <p>第3回：発音2一複母音</p> <p>第4回：発音3一子音・音節の構造</p> <p>第5回：発音4一声調の変化・r音化・拼音総復習</p> <p>第6回：「你叫什么名字？」初対面の挨拶・判断文</p> <p>第7回：「你是留学生吧？」疑問文・推量表現</p> <p>第8回：「你学习什么专业？」動詞文・学校と専攻</p> <p>第9回：「你家有几口人？」家族の言い方・数量詞1</p> <p>第10回：復習・学習確認・映像で中国文化紹介</p> <p>第11回：「哪个相机是你的？」「的」の使い方・形容詞述語文</p> <p>第12回：「哪个相机是你的？」指示代名詞・数量詞2</p> <p>第13回：「你今年多大？」数量詞3・形容詞2</p> <p>第14回：「你今年多大？」年齢・干支</p> <p>第15回：総復習</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト 『快音快調中国語（初級）』朱継征著 駿河台出版社 2023

参考書・参考資料等 『キクタン中国語「入門編」中検準4級レベル』 氷野善寛著 アルク出版社

学生に対する評価

授業参加（25%）、宿題・課題提出（25%）、期末考査（50%）により総合的に成績を評価します。
出席数が全授業数の7割を下回った場合は単位を取得することができません。

宿題・課題は添削してから返却し、解説します。テストは返却後に答え合わせし、解説します。口頭発表は発音や内容を指導します。

| | | | |
|--|-------------------------|-------------|----------------------|
| 授業科目名： 中国語Ⅱ聴く・話す | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：姜杰裕 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>中国語レベルⅡは、「文法」（週1回の授業になる）、「読む・書く」、「聴く・話す」のコースに分かれています。各コースともレベルⅠ-2の合格者が受講できることになっているが、レベルⅠの「文法」2を合格していれば、レベルⅠの「読む・書く」、「聴く・話す」の単位を取得していなくても、それぞれのコースのレベルⅡ-1を履修することすることができます。</p> <p>学習目標は、常用語2000語で、中国語検定3級或いは中国語HSK4級の合格レベルです。。平易な新聞記事が理解でき、簡単なレポート程度の文章が書けるようになります。また、日常生活に困らない程度の会話能力を身につけます。</p> | | | |
| <p>授業の概要：</p> <p>「中国語Ⅱ一聴く・話す1」は中国語1で既に習得した語学力に基づいて、中国語を「話す」時、語彙の声調を重視しながら、イントネーションにも重点を置き強化していきます。自分自身のこと、家族のこと及び大学生活など日常生活の出来事について、場面設定の会話練習を通して、既習語彙と文法を生かし、中国語で自然に簡単なコミュニケーションがとれるように勉強します。同時に視聴覚資料など通じて中国の風俗習慣などを紹介し、異文化への理解を深め、言語の学習に役立てます。中国人留学生との交流機会を設け、中国語を用いた交流を実践することで話す自信をつけさせ、聞く能力と話す能力を鍛えます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：レベルⅠの簡単復習・2年の中国語学習目標立て</p> <p>第2回：「自我介绍」（1）新出単語解説・文法のおさらい</p> <p>第3回：「自我介绍」（2）本文の解説・自己のことについて会話</p> <p>第4回：「兴趣, 爱好」（1）新出単語解説・文法の理解</p> <p>第5回：「兴趣, 爱好」（2）本文の解説・趣味について会話</p> <p>第6回：「我的家」（1）新出単語解説・文法の理解</p> <p>第7回：「我的家」（2）本文の解説・家・家族のことについて会話</p> <p>第8回：復習・発表の練習</p> <p>第9回：「去学校」（1）新出単語解説・文法の理解</p> <p>第10回：「去学校」（2）本文の解説・学校生活紹介・会話練習</p> <p>第11回：「买东西」（1）新出単語解説・文法理解</p> <p>第12回：「买东西」（2）本文の解説・買い物について会話</p> <p>第13回：「点菜」（1）新出単語解説・文法理解</p> | | | |

第14回：「点菜」（2）本文解読・料理名・注文の方法の練習

第15回：総復習

第16回：定期試験

テキスト

『話そう！実践中国語』 宮本大輔・温琳 著 朝日出版社

参考書・参考資料等

『キクタン中国語「初中級編」中検準3級レベル』 氷野善寛著 アルク出版社

学生に対する評価

授業参加（25%）、宿題・課題提出（25%）、期末考査（50%）により総合的に成績を評価します。

総授業数の三分の一以上欠席する場合は単位を取得することができなくなります。

宿題・課題は添削してから返却し、解説します。テストは返却後に答え合わせし、解説します。口頭発表は発音や内容を指導します。

| | | | |
|--|----------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： コンピュータ・リテ ラシー | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 清水 大輔 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | コンピュータ・リテラシー | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>基本的な情報リテラシーを身につけて、インターネットとコンピュータを大学在学中に活用できるようになる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>履修者がすでに持っているスキルを見きわめながら、すべての授業で活用可能な実践的な能力を身につけられるようにします。「操作法を身につけるための操作実習」はできる限り省略して、インターネットとコンピュータを大学在学中に活用するための、実用的な利用法を学びます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：学内システムの利用方法 第2回：メールの送受信とマナー 第3回：情報デザイン基礎（1）情報デザインのルール 第4回：情報デザイン基礎（2）Canvaを利用した実践 第5回：ソーシャルメディアにおける情報の受発信（1）事例の考察 第6回：ソーシャルメディアにおける情報の受発信（2）法規・運用方法 第7回：ドキュメントアプリケーションの利用（1）基本操作・応用 第8回：スプレッドシートアプリケーションの利用（1）基本操作 第9回：スプレッドシートアプリケーションの利用（2）応用 第10回：AIがもたらした社会の変化 第11回：ビックデータを使った最新の運用事例 第12回：プレゼンテーション概論 第13回：プレゼンテーション演習（1）企画（グループワーク） 第14回：プレゼンテーション演習（2）制作（グループワーク） 第15回：プレゼンテーション発表</p> <p>定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>なし</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> | | | |

講義中に適宜指示する

学生に対する評価

- ・講義中に実施する小レポートの提出【評価割合30%】
- ・学期末に実施するプレゼンテーション（グループワーク）【評価割合60%】
- ・その他授業の出席など【評価割合10%】

| | | | |
|---|---|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：情報メディア論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：一戸信哉 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 メディア環境の変容がもたらす諸課題を理解し、情報メディア社会で「発信者」として活躍できる素養を身につける。 | | | |
| 授業の概要 ソーシャルメディアの普及をはじめとするメディア環境の変化は、私たちの「つながり」をさらに進化させ、社会の可能性を開いてきたが、課題も明らかになってきている。メディア環境の変容がもたらす諸課題を理解し、情報メディア社会で「発信者」として活躍できる素養を身につける。 | | | |
| 授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：情報共有ツールの設定 第3回：既存メディアの現状1：新聞 第4回：既存メディアの現状2：テレビ 第5回：既存メディアの現状3：ラジオ 第6回：既存メディアの現状4：雑誌 第7回：ソーシャルメディアの現状把握 第8回：ソーシャルメディアとニュース 第9回：ソーシャルメディアと広告 第10回：ソーシャルメディアとモノ 第11回：情報メディアと規制 第12回：新潟に関連する地域メディアサービスの実態把握と利用 第13回：新潟を発信する1 第14回：新潟を発信する2 第15回：新潟を発信する3 定期試験 | | | |
| テキスト 特になし。 | | | |
| 参考書・参考資料等 適宜指示します。 | | | |
| 学生に対する評価 出席、授業運営への寄与、課題により評価します。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|-------------|--|
| 授業科目名： 英語IV聴く・話す | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 4単位 | 担当教員名： 大岩彩子、カルロ・マラシガ ガン、ブライアン・サウスウ イック、ビル・ムリノス 担当形態：クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目は英語でのコミュニケーションスキルの上達と実生活で使える英語表現の習得を目指すコースである。自分の考えや意見、経験を英語で表現する力をつけ、対話の仕組みを理解し、提示された情報のギャップを特定し、明確にするための質問をする力を養う。学期末にはCEFRのB2レベル以上に到達することを目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>リスニングスキル向上のためにテーマに基づいた動画や音源を活用し、語彙や表現方法を学ぶ。スピーキングスキルの向上のためには自身の考えを英語で表現する練習のためにグループワークやペアワークを中心に活動を行う。また、プレゼンテーションとその後の質疑応答の練習も行う。履修者は授業に備えて準備をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：Boundary issues：Listening 第2回：Boundary issues: Speaking 第3回：Boundary issues: Presentation 第4回：Gender issues: Listening 第5回：Gender issues: Speaking 第6回：Gender issues: Presentation 第7回：Career: Listening 第8回：Career: Speaking 第9回：Career: Presentation 第10回：Immigration: Listening 第11回：Immigration: Speaking 第12回：Immigration: Presentation 第13回：Social media: Listening</p> | | | |

第14回 : Social media: Speaking
 第15回 : Social media: Presentation
 第16回 : Gender issues: Listening
 第17回 : Gender issues: Speaking
 第18回 : Gender issues: Presentation
 第19回 : Intercultural communication: Listening
 第20回 : Intercultural communication: Speaking
 第21回 : Intercultural communication: Presentation
 第22回 : Beliefs, war, peace: Listening
 第23回 : Beliefs, war, peace: Speaking
 第24回 : Beliefs, war, peace: Presentation
 第25回 : Relationships: Listening
 第26回 : Relationships: Speaking
 第27回 : Relationships: Presentation
 第28回 : Family, life changes: Listening
 第29回 : Family, life changes: Speaking
 第30回 : Family, life changes: Presentation
 期末テスト

テキスト

Impact Issues 3, Third Edition

著者 : Day, R.; Shaules, J. and Yamanaka, J.

出版社 : Pearson

参考書・参考資料等

学生に対する評価

プレゼンテーション (60%)、課題 (25%) 授業への貢献度 (15%)

| | | | |
|--|----------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 教育原理 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 伊藤 敦美 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。 2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。 3. 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>この授業では、教育が歴史的にどのように発展し、現代に至ったのかを跡付けていくことによって、教育の基本概念とはなにか、教育の目標がどこに求められたのか、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶ。また、近代教育の成立に寄与した代表的な人物の教育思想、日本の近代学校教育制度成立期の教育思想、第2次大戦後の教育思想や教育理念を学ぶことを通して「不易」といわれる変わらない教育の本質と次代の要請による教育の在り方いわゆる教育の「流行」を捉える。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か</p> <p>第2回：教育の基本構造（1）陶冶・教化・形成</p> <p>第3回：教育の基本構造（2）転移概念と学力</p> <p>第4回：教育の思想（1）ロック・コメニウス</p> <p>第5回：教育の思想（2）ルソー・ペスタロッチ・フレーベル</p> <p>第6回：教育の思想（3）ヘルバルト・デューイ</p> <p>第7回：西洋における学校教育の歴史（1）古代～中世</p> <p>第8回：西洋における学校教育の歴史（2）近世～現代</p> <p>第9回：公教育体制の成立</p> <p>第10回：日本の教育の歴史（1）明治・大正</p> <p>第11回：日本の教育の歴史（2）戦前・戦中</p> <p>第12回：日本の教育の歴史（3）戦後</p> <p>第13回：教育の目的・目標</p> | | | |

第14回：学校の教育目標：学校教育の目標と学校の教育目標

第15回：現代社会の教育課題

定期試験

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

デューイ実験学校におけるカリキュラムと学校運営（伊藤敦美 考古堂書店）

学校と社会（ジョン・デューイ著・市村直久訳 講談社学術文庫）

民主主義と教育（ジョン・デューイ著・河村望訳 人間の科学社）

学生に対する評価

学習理解の確認（テスト）50%、授業で課す課題とレポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）20%で評価する。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 教職入門 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 江口 和美 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応含む。) | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| この科目は教職課程履修における最初の科目である。そのため、児童・生徒の視点からしか見えていなかった教職の意義、具体的な役割、職務内容や制度について理解し、将来の職業選択に資する知識を得ることを到達目標とする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義は、講義形式で行う。児童・生徒の立場からしか見えていなかった教員の仕事を、具体的な職務内容や制度、教員を取り巻く問題等についても知り、教員という職業の全体像をつかむことを目指す。教員という仕事をより具体的にイメージできるようにするため、講義のはじめと終盤との2回、自らがなぜ教職につきたいのか、理想とする教員像はどのようなものであるかを考え、発表・意見交換等の機会を設ける予定である。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：はじめに（どうして教員免許を取りたいのか、どんな教員になりたいのか考えてみる） | | | |
| 第2回：最近の子どもの生活と学校・子ども達をとりまく今日的な課題 | | | |
| 第3回：教員の仕事（1）学習指導 | | | |
| 第4回：教員の仕事（2）生徒指導・進路指導 | | | |
| 第5回：教員の仕事（3）部活動と校務分掌 | | | |
| 第6回：教員の仕事（4）学級経営と安全 | | | |
| 第7回：望まれる教師像の歴史的変遷と今もとめられるもの | | | |
| 第8回：教員養成と教員免許制度 | | | |
| 第9回：教員免許の更新制と研修制度 | | | |
| 第10回：教員採用の仕組みと現状 | | | |
| 第11回：教員の身分に関する制度と法 | | | |
| 第12回：学校での教育活動を支える多くの人々（チーム学校と地域連携） | | | |
| 第13回：教員としての責任と一個人としての生活（ワークライフバランス） | | | |
| 第14回：学んだことを踏まえて、教員免許の取得と理想の教師像を考えて発表してみよう | | | |
| 第15回：次世代を育てるとい仕事の特異性と興味深さ・まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 秋田喜代美（2024）『新しい時代の教職入門[第3版]』有斐閣。 | | | |

参考書・参考資料等

講義の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末を含む各種課題・レポート等70%、授業への取り組み30%で評価する。

| | | | |
|---|--|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 教育制度論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 江口 和美 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域の連携及び学校安全への対応を含む。) | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 我が国の学校制度と関連する基本的な法体系を理解する。そのうえで、それぞれの学校種がどのように運営されているのか、教育費負担、教育課程、教職員、保護者など学校教育に関連する側面に視野を広げ、学校教育の全体像を理解し、学校教育における諸問題（地域連携・学校安全関連を含む）を多角的に考えられる素地を養うことを到達目標とする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義は、講義形式で行う。学校教育に係る行政制度（国と地方の役割分担を含む）の体系と基本的な関連法規の内容について理解を深めることが目的である。意識はしていなくとも学校教育も多くのことは国の法令で定められた制度の枠内で行われている。講義の中で自らの体験を振り返り、制度や仕組みと実体験を結び付けつつ、教育制度の全体像をつかむことを目指す。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：憲法、教育基本法を読んでみよう | | | |
| 第2回：学校教育法を読んでみよう | | | |
| 第3回：教育行財政制度と法を概観する | | | |
| 第4回：学校教育の経費負担制度と法 | | | |
| 第5回：就学前教育制度と法 | | | |
| 第6回：初等・中等教育制度と法 | | | |
| 第7回：高等教育制度と法 | | | |
| 第8回：教育課程と法 | | | |
| 第9回：教職員に係る制度と法 | | | |
| 第10回：学校経営とPDCAサイクル | | | |
| 第11回：さまざまなリスクと対応（学校保健安全）、食育・学校給食と法 | | | |
| 第12回：学校、家庭、地域住民の連携と法 | | | |
| 第13回：社会教育・生涯学習 | | | |
| 第14回：教育機会の多様化と教育機会確保法 | | | |
| 第15回：まとめ | | | |

テキスト

阿内春生編著（2024）『基礎から学ぶ教育行政・教育制度論』昭和堂

参考書・参考資料等

講義の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末を含む各種課題・レポート等75%、授業への取り組み25%で評価する。

| | | | |
|--|------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名： 発達と 学習の教育心理学 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 益谷 真 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>1) 生徒の心身の発達に関する外的及び内的要因の相互作用論をはじめとした発達に関する代表的理論を踏まえて、発達概念及び発達段階に応じた教育的配慮の理解を深める。</p> <p>2) 生涯発達を視野に入れた各時期における行動・言語・認知・社会性の発達の道筋について具体的な理解を深める。</p> <p>3) 発達に応じた学習スキルとその過程に関わる代表的な基礎理論について理解を深める。</p> <p>4) 発達に応じた主体的な学習を支える指導の基礎になる動機づけや学習評価について理解を深める。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>生徒の心身の発達を踏まえた学習の過程に関する基礎的で科学的な知識を習得し、各発達段階における心理的特性を踏まえて、子どもが主体的に考える活動を支える指導ができるように習得した知識を活用する。その手段として図解技法を用いて個人の学習をまとめ、グループで意見交換しながら協同して知識地図を作成し、それを発表して質疑応答によって深い学びを図る。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：知的技能と図解 | | | |
| 第2回：質問と説明の学習スキル | | | |
| 第3回：発達の原理と理論 | | | |
| 第4回：認知発達 | | | |
| 第5回：社会性の発達 | | | |
| 第6回：個人差の理解 | | | |
| 第7回：学校・学級の適応 | | | |
| 第8回：学級集団 | | | |
| 第9回：動機づけと学び | | | |
| 第10回：学習のメカニズム | | | |
| 第11回：スキルの熟達 | | | |
| 第12回：学習と教育の評価 | | | |
| 第13回：学習指導の形態とアクティブ・ラーニング | | | |
| 第14回：課題の発見と活用レベルの学習 | | | |

第15回：ICTを利用した探究レベルの学習

テキスト

藤澤伸介（編著）『探究！教育心理学の世界』新曜社、平成29年

参考書・参考資料等

参考書はテキストにも掲載されているが必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

個人の学習のまとめを授業中に評価して返却する。12回のフィードバックで計6割、グループで作成した知識地図の相互評価を12回で3割、グループ発表の質疑応答を1割の配分で総合的に評価する。

| | | | |
|---|----------------------------|-------------|---------------------------|
| 授業科目名：特別支援 教育概論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名： 齊藤勇紀 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別な支援を必要とする児童および生徒の障害の特性やその発達段階を理解する。</p> <p>特別な支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程および支援の方法について理解する。</p> <p>特別な「教育的ニーズ」を有する児童および生徒の学習上の困難さの理科地と対応の必要性を理解する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>障害の理解および学習上、生活上の困難さの理解と支援の在り方を学ぶとともに、実際の事例と通して具体的な教育的支援について理科を深める。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 障害の概念、特別支援教育の理念と制度、ICF</p> <p>第2回：特別支援教育の仕組みと実際 インクルーシブ教育システム、特別支援学校、特別支援学級、通級指導、教育課程の編成、自立活動</p> <p>第3回：特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 (1) 身体障害 (視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害)</p> <p>第4回：特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 (2) 知的障害</p> <p>第5回：特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 (3) 発達障害 (ASD、LD、ADHD)</p> <p>第6回：特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 (4) その他の障害 (病弱・重症心身障害)</p> <p>第7回：その他の特別な「教育的ニーズ」のある子どもの理解と支援 (外国籍の子ども、貧困等)</p> <p>第8回：関係機関、地域との連携、保護者支援</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>齊藤勇紀・守巧 (編著)・山田謙一 (医療監修) 『子どもが共に育つための障害児保育—障害についての深い学びから子どもの支援に生かす—』 萌文書林、2022.</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>レポート (80%)、授業への取り組み (授業課題, 発言) (20%) レポートおよび授業課題についてはコメントを添えて返却する。</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： カリキュラム論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 江口 和美 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。) | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育課程の基準である学習指導要領の意義や役割と各学校において編成されている教育課程との関係性を理解するのみならず、各学校での教育課程の編成の実際やカリキュラム・マネジメントの基礎的事項に関し、理解を深めることを到達目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義形式で行う。まず、はじめに日本における教育課程改革、学習指導要領の変遷について学ぶとともに学習指導要領の果たしている役割や教育課程に関する制度について理解する。そのうえで、カリキュラム編成の原理や発達段階との関係、教育課程と社会のつながり等に目を向け、学校における教育課程の全体像をつかみ、教育課程の編成の意義と重要性を理解することを目指す。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに 教育課程（カリキュラム）・カリキュラム・マネジメントとは何か 第2回：日本の教育課程改革の歴史（明治・大正・昭和） 第3回：学習指導要領の変遷（1）（1947年・1951年・1958年改訂） 第4回：学習指導要領の変遷（2）（1968年・1977年・1989年改訂） 第5回：学習指導要領の変遷（3）（1998年・2008年・2017年改訂） 第6回：学習指導要領と教科書制度 第7回：近年のカリキュラム改革の動向（市民性教育・プログラミング教育等） 第8回：カリキュラムと教育目標・内容選択基準 第9回：カリキュラムの編成原理（1）（経験主義・系統主義・領域論） 第10回：カリキュラムの編成原理（2）（カリキュラムの類型・アプローチ・設計） 第11回：子どもの発達とカリキュラム 第12回：カリキュラムの社会学（学校批判・教育と平等・隠れたカリキュラム） 第13回：カリキュラムと評価 第14回：教科のカリキュラムと教科外のカリキュラム 第15回：諸外国のカリキュラムと国際バカロレア・まとめ</p> <p>※状況に応じ、内容が前後することがあります。</p> | | | |

テキスト

黒川雅子・小野まどか・坂田 仰（編著）（2020）『JSCP双書No.4 新訂 第2版 教育課程論』
教育開発研究所

参考書・参考資料等

文部科学省（2020）『中学校学習指導要領(平成29年告示)』

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』

その他、講義の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末を含む各種課題やレポート等70%、授業への取り組み30%で評価する。

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 道徳教育指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：中野啓明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 道徳の理論及び指導法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 1. 道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における道徳教育及び「特別の教科 道徳」（道徳科）に関する目標・内容・方法・評価について理解する。 2. 道徳教育と道徳授業に関する諸理論と指導方法を理解し、道徳科の授業に関する基礎的な指導力を習得する。 | | | |
| 授業の概要 道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における目標・内容・方法・評価をもとに、道徳教育と道徳授業の理論と実践を概説する。これらの学習内容をもとに、後半では道徳科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことをとおして、実践的な指導力の習得を目指す。 | | | |
| 授業計画 第1回： 道徳・道徳教育とは何か 第2回： 全面主義道徳 第3回： 道徳教育の目標構造 第4回： 「特別の教科 道徳」（道徳科）の目標・内容・方法・評価 第5回： 道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画 第6回： 道徳授業の理論と実践① ー道徳性の発達段階論ー 第7回： 道徳授業の理論と実践② ーSST理論に基づいた役割演技ー 第8回： 道徳授業の理論と実践③ ー価値明確化理論ー 第9回： 道徳授業の理論と実践④ ーケアリング論ー 第10回： 道徳授業の課題ー道徳科における教材、発問、指示の検討ー 第11回： 道徳科学習指導案の作成① ー指導案の構想ー 第12回： 道徳科学習指導案の作成② ーグループによる指導案の検討ー 第13回： 模擬授業① ー模擬授業の実施と検討 第1回ー 第14回： 模擬授業② ー模擬授業の実施と検討 第2回ー 第15回： 道徳形成の課題 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |

貝塚茂樹・関根明伸編著『道徳教育を学ぶための重要項目100』（教育出版）

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』

参考書・参考資料等

小柳正司編著『道徳教育の基礎と応用－生き生きと学ぶ道徳の教育－』（あいり出版）

学生に対する評価

定期試験70%、模擬授業20%、学習態度10%の比率で評価する。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：総合的な学習の指導法 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：1 単位 | 担当教員名： 金 洋輔 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 総合的な学習（探究）の時間の指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標や内容を定める際の考え方を理解することができる。 2. 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。 3. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義は、主として学習指導要領に規定されている総合的な学習の時間の目標や内容の設定、指導計画の作成、指導と評価の一体化の考え方等について、実際の学校現場の事例を交えながら解説します。</p> <p>また、これらの知識を活用しながら、具体的な単元の計画を作成してもらいます。その過程では、学生同士による相談や相互評価、教師によるフィードバック等の活動を設定します。</p> <p>これらの過程を通して、実践力の基礎を身に付けることを期待します。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置付け</p> <p>第2回：総合的な学習の時間の目標、内容</p> <p>第3回：総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画</p> <p>第4回：単元計画の書き方</p> <p>第5回：探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て</p> <p>第6回：単元計画の作成</p> <p>第7回：総合的な学習の時間における児童生徒の学習状況に関する評価の方法およびその留意点</p> <p>第8回：総合的な学習の時間を支えるための体制づくり、単元計画の作成と相互評価</p> <p>定期試験は実施しない</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>以下の図書について、教員免許の取得を目指す学校種のを文部科学省のホームページからダウンロードする、もしくは市販の書籍版を購入すること。</p> | | | |

- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」（令和3年3月）
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」（令和4年3月）
- ・「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（高等学校編）（令和5年3月）

参考書・参考資料等

以下の図書について、教員免許の取得を目指す学校種ものを文部科学省のホームページからダウンロードする、もしくは市販の書籍版を購入すること。

- ・【総合的な学習の時間編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
- ・【総合的な学習の時間編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説
- ・【総合的な探究の時間編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校編 総合的な学習の時間（令和2年3月）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校編 総合的な学習の時間（令和2年7月）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校編 総合的な探究の時間（令和3年8月）

学生に対する評価

以下の観点から総合的に評価する。

1. 学習内容の節目毎に課す「振り返りレポート」（30%）
2. 作成した「単元計画」の成果（40%）
 - ・学生相互で評価した上で、担当者からフィードバックします。
3. 毎回の授業への参加度（30%）

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名： 特別活動論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 田村 和弘 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 特別活動の指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「テーマ」 特別活動の理論と実践力の基礎を身に付ける。</p> <p>「到達目標」 1. 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、説明することができる。 2. 特別活動の指導に必要な知識を生かして、学習指導案を作成することができる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における特別活動の目標及び内容の理解、特別活動の指導の実際を学ぶ。</p> <p>授業の実際を想定して、授業担当者が実践を紹介したり、デモンストレーションをしたりする。学習指導案を作成して、教師役、生徒役を行い、学生同士の相互評価を通して、実践力を身に付ける。（学習指導案を作成して受講生が一人1回教師役となり、10分程度の模擬授業を行う。）</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、特別活動とは何か（主な内容について）</p> <p>第2回：特別活動は何のために行うのか（特別活動の意義、目標）</p> <p>第3回：特別活動の内容とその実際（人間関係形成を中心に）</p> <p>第4回：特別活動の内容とその実際（社会参画を中心に）</p> <p>第5回：特別活動の内容とその実際（自己実現を中心に）</p> <p>第6回：学級活動・ホームルーム活動の特質とその実際</p> <p>第7回：学級活動・ホームルーム活動の特質とその実際</p> <p>第8回：児童会・生徒会活動、クラブ活動の特質とその実際</p> <p>第9回：学校行事の特質とその実際</p> <p>第10回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方の理解とその実際</p> <p>第11回：合意形成に向けた話し合い活動の指導、意義と指導法の実際</p> <p>第12回：意志決定につながる指導、意義と指導法の実際</p> <p>第13回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連</p> <p>第14回：教育課程全体で取り組む特別活動の在り方の理解（キャリア教育の要として）</p> <p>第15回：まとめ（特別活動における取組の評価・改善活動の重要性の理解）</p> | | | |

| |
|---|
| <p>(第7回以降、学生による一人10分程度の構成的グループエンカウターの模擬授業を行う)</p> <p>定期試験 なし</p> |
| <p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉澤克彦・田村和弘編著『エンカウターで学級づくり 1 2か月フレッシュ版中学校2年』明治図書、2012 2. 岩崎保之編著『新カリキュラム対応 教育・保育の基礎を学ぶ一子どもの育ちを支える理論と実践一』国際文献社 2017 |
| <p>参考書・参考資料等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松井賢二・田村和弘編著『新版 ワークシートで創る！中学校3年間のキャリア教育・進路指導』東洋館出版社 2023 2. 文部科学省「小学校 キャリア教育の手引き」文部科学省ホームページ、2022 3. 文部科学省「中学校・高等学校 キャリア教育の手引き」文部科学省ホームページ、2023 4. 文部科学省「小学校学習指導要領解説（特別活動編）」文部科学省ホームページ、2017 5. 文部科学省「中学校学習指導要領解説（特別活動編）」文部科学省ホームページ、2017 6. 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（特別活動編）」文部科学省ホームページ、2018 |
| <p>学生に対する評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート（学習指導案）25%、ワークシート25% 学習態度40%、その他（模擬授業）10%で査定する。 2. レポート及び模擬授業は、受講生相互で評価した上で、授業時間中に担当者からフィードバックする。 3. ワークシートに身に付けるべき知識等についての的確に記載されているかを見取り、指導・助言を書き入れ学生に返却する。 4. 「学習態度」は、出席状況を中心として、授業中の発言、授業中の態度等を加味して総合的に査定する。 |

| | | | |
|--|---|-------------|---------------------|
| 授業科目名: 教育の方法・技術と ICTの活用 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数: 2単位 | 担当教員名: 中野啓明・益谷 真 |
| | | | 担当形態: オムニバス |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校及び高等学校の外国語(英語)科、中学校の社会科、高等学校の地理歴史科及び公民科) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1) 21世紀の情報社会を担うことになる子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な指導方法の基礎的理論と実践を理解する。</p> <p>2) 教育の目標に適した基礎的な指導技術(指示、発問、板書、グループ指導等)を理解し、学習評価も含めた学習指導案が作成できる。</p> <p>3) ICTを効果的に活用した学習の基礎的事項を理解し、各教科等の特性に応じた指導事例から指導技術を抽出できる。</p> <p>4) ICTを活用した校務推進の在り方を理解し、具体的な実践事例についてオンライン教育の意義と留意点をクリティカルに考察できる。</p> <p>5) 情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を理解し、主体的・対話的で深い学びにICTを活用できる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>これからの社会を担う子ども達に求められている資質・能力を育むために必要となる、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を概説する。具体的には、学習指導要領等に拠りながら、コンピテンシーとしての資質・能力の育成や主体的・対話的で深い学びの実現が求められていることを概説する。また、教育方法の基礎的な理論としての問題解決学習や発見学習、プログラム学習等の学習方法の系譜を学ぶと共に、授業の構成要素としての発問を例としながら子どもの考えを引き出す教師の指導の在り方を論ずる。さらに、目標・内容、教材・教具、授業展開、評価の基礎的な考え方等の指導案作成上の留意点を論ずる。さらにまた、学校教育の場におけるICTの活用の実際を参照しつつ、実際例に基づきながらICTの活用の在り方を探る。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回: コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへの転換(担当:中野啓明)</p> <p>第2回: 主体的・対話的で深い学びの実現(担当:中野啓明)</p> | | | |

- 第3回: 教育方法の諸理論(担当:中野啓明)
- 第4回: 授業を構成する基本的な要(担当:中野啓明)
- 第5回: 子どもの考えを引き出す発問の理論と技術① - 知覚の言語、間接性の原理 - (担当:中野啓明)
- 第6回: 子どもの考えを引き出す発問の理論と技術② - 選択語の原理、対比 - (担当:中野啓明)
- 第7回: 指導案の構成要素と実際例(担当:中野啓明)
- 第8回: 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実(担当:中野啓明)
- 第9回: 教育においてICTを活用することの意義とその実際(担当:中野啓明)
- 第10回: ICTを活用した校務推進の先進的事例(担当:益谷 真)
- 第11回: ICTで管理する教育情報のセキュリティと教材データ(担当:益谷 真)
- 第12回: 各教科等で横断的に育成する情報活用能力(担当:益谷 真)
- 第13回: 各教科等の特性に応じたICTの効果的な活用の実例(担当:益谷 真)
- 第14回: 学習形態(個別、グループ、一斉)に応じたICTの活用方法と授業設計(担当:益谷 真)
- 第15回: 主体的・対話的で深い学習を効果的にするICTの活用と指導方法(担当:益谷 真)

テキスト

1. 岩崎保之編著『教育・保育の基礎を学ぶ』国際文献社、2017
2. 稲垣 忠編著『教育の方法と技術ver.2』北大路書房、2022

参考書・参考資料等

向山洋一『新版 授業の腕をあげる法則』学芸みらい、2015

なお、下記は必ず参照すること。

文部科学省 『中学校 学習指導要領解説 総則編』 文部科学省

文部科学省 『高等学校 学習指導要領解説 総則編』 文部科学省

学生に対する評価

最終レポート30%、毎回実施する小テストまたは小レポート60%、学習態度10%

| | | | |
|--|--|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：生徒・進路 指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：伊藤敦美 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義、教育課程における生徒指導の位置づけと重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制の基本的な考え方を理解する。 2 すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 3 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態及び定義、外部の専門家や関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。 4 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと指導の在り方、指導体制及び家庭や関係機関等との連携の在り方を理解する。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>生徒指導は、学習指導とならぶ重要な教育活動であり、教育活動全体を通じて行われる。この授業では、生徒指導の意義や教育課程における生徒指導の位置づけ、方法原理やその指導体制と進め方、児童生徒の抱える生徒指導上の諸課題の様態及び他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や技能等について取り上げる。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：教育課程における生徒指導の位置づけ及び各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義と重要性 | | | |
| 第2回：集団指導・個別指導の方法原理及び生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違い | | | |
| 第3回：学級担任、教科担任その他の校務分掌上の役割と学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な生徒指導の取組の在り方 | | | |
| 第4回：児童生徒全体への生徒指導（1）基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成 | | | |
| 第5回：児童生徒全体への生徒指導（2）自己存在感を育む場や機会の設定 | | | |
| 第6回：生徒指導に関する法制度：校則・懲戒（停学及び退学を含む）・体罰等 | | | |
| 第7回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（1）：いじめ | | | |
| 第8回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（2）：不登校・暴力行為 | | | |
| 第9回：今日的な生徒指導上の課題及び関係機関との連携：インターネット、児童虐待 | | | |
| 第10回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 | | | |
| 第11回：進路指導・キャリア教育の指導体制及び家庭や関係機関との連携 | | | |

第12回：職場体験活動を核としたカリキュラム・マネジメント

第13回：ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義及び留意点

第14回：キャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用

第15回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践

定期試験

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—（岩崎保之編著 国際文献社）

生徒指導提要（令和4年12月、文部科学省）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

「いじめ問題」から授業・学校改革を考える（斎藤勉著、明治図書）

生きる力を育む生徒指導（宮下一博、河野莊子編著、北樹出版）

キャリア教育基礎論（藤田晃之、実業之日本社）

進路指導・キャリア教育の理論と実践（吉田辰夫、篠翰著、日本文化科学社）

学生に対する評価

学習理解の確認（テスト）50%、授業で課す課題とレポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）20%で評価する。

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名: 教育相談 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数: 2単位 | 担当教員名: 益谷 真 担当形態: 単独 |
| 科目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校における教育相談の意義と課題について心理学の基礎的な理論を踏まえて理解する。 2) カウンセリングマインドの必要性和教育課題や発達課題に応じた面談技法を理解する。 3) 校務分掌に応じて教育相談の校内体制を整備し、地域の専門機関との連携を図る意義を理解し、生徒並びに保護者に教育相談する際の目標の立て方や進め方を例示できる。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>教育相談は学級担任が最初の窓口になって、生徒が自己理解を深め、自制心やストレス耐性を高め、良好な人間関係を築いて、集団の中で適応的に生活する資質を育み、個性や人格形成を支援する教育活動である。生徒の心身の発達に応じて、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、生徒の成長を支援するために必要なカウンセリングマインドの意義や接遇技法に関する基礎的知識を演習や話し合いを通じて体験的に学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回: 教育相談の目的、役割、活動内容</p> <p>第2回: 教育相談の学校内の体制と地域の専門機関との連携</p> <p>第3回: 学校精神保健の経緯とメンタルヘルス</p> <p>第4回: 発達の障害</p> <p>第5回: 学級・学校生活の不適応</p> <p>第6回: 心理アセスメントの概要と情報の取り扱い</p> <p>第7回: 代表的なカウンセリングの理論</p> <p>第8回: 個別対応の基本プロセスと段階別の援助技法</p> <p>第9回: 学級経営に活かす予防・開発的な援助技法</p> <p>第10回: 配慮が必要な子どもと障害のある子どもの理解と対応</p> <p>第11回: 不登校の背景、発生要因、対応</p> <p>第12回: いじめの様相と対応</p> <p>第13回: 非行の背景、発生要因、対応</p> <p>第14回: 教師のカウンセリングマインド</p> <p>第15回: 保護者対応の考え方とクレーム対応</p> | | | |
| テキスト | | | |

大芦 治『教育相談・学校精神保健の基礎知識 第3版』ナカニシヤ出版、平成 28 年

参考書・参考資料等

授業中の課題についてはプリント等で必要な資料を配布する。参考書については必要に応じて適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業中に3つの達成目標に関する課題にグループで取り組み、レポートを個人で作成する。3つのレポートで6割、授業中の課題遂行状況の確認(グループ課題)が6回で3割、探究課題としてアドラー心理学に関する読書レポートを1割の配分で総合的に成績を判定する。

シラバス：教職実践演習

| | | | | | |
|--|------------|------------------|---|---------------|---|
| シラバス：教職実践演習 | 単位数：2単位 | 担当教員名：益谷 真・江口 和美 | | | |
| 科目 | 教育実践に関する科目 | | | | |
| 履修時期 | 4年次後期 | 履修履歴の把握(※1) | ○ | 学校現場の意見聴取(※2) | ○ |
| 受講者数 15人(第7・8回のみ英語・社会科の2クラスで実施) | | | | | |
| <p>教員の連携・協力体制</p> <p>教職入門、教育制度論、カリキュラム論等により、教育指導、教育課程、学級経営等、教育実習等を担当してきた教員と、教育心理学、教育方法技術、教育相談、教育実習等を担当してきた教員が、各々のテーマで主となって指導する。教科に関するテーマについては、教科教育法の担当者をゲストに招き、教育実習での研究授業を振り返り、個別指導で補完する。学校現場に長年の経験と見識をもつ教育委員会指導主事等をゲストに招き、学校の今日的課題、教職の意義及び教員の社会的役割について質疑を通じて理解を深める。最終的に担当者で合評して評価する。</p> | | | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>社会・地域から教師に求められる以下の4つの事項に関して総合的な修得を目指す。</p> <p>① 教師としての使命感と教育的愛情等について</p> <p>教育に使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につけている。</p> <p>高い倫理観と規範意識を備え、困難に立ち向かう強い意志を示し、自己の職責を果たせる。</p> <p>子どもの成長や安全・健康を第一に考え、適切な指導が行える。</p> <p>省察して実践を営む基本的な姿勢を身につけている。</p> <p>② 社会性や対人関係能力について</p> <p>教育職員としての職責や義務を自覚して、目的や状況に応じた適切な言動がとれる。</p> <p>組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務が遂行できる。</p> <p>保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>地域社会の一員として地域や学校の各種行事・ボランティア等に積極的に参加し、その責務を果たせる。</p> <p>③ 生徒理解や学級経営について</p> <p>子どもに対して公平かつ受容的態度で接し、豊かな人間的交流が行える。</p> <p>子どもの発達や心身の状況に応じて、発達課題を理解し、適切な指導が行える。</p> <p>子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営が行える。</p> <p>子どもの実態や学校の教育課題を踏まえて、ICTを活用したアセスメント情報を管理して学級経営の評価が行える。</p> <p>③ 教科等の指導力について</p> <p>教科等の知識や技能を身につけ、学習指導要領に習熟している。</p> <p>授業を行う上での基本的な技能や表現力を身につけている。</p> <p>ICTを活用して学習効果を高める基本的な知識・技能を習得している。</p> <p>子どもの反応や学習の定着状況に応じて授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>地域や学校、生徒の実態に応じた興味・関心に基づいて、教科等の枠を超えた横断的で総合</p> | | | | | |

| |
|---|
| <p>的な学習や探求的な学習などの創意工夫を活かした教育活動を構想し、ICTを活用したプログラムの管理・運営ができる。</p> |
| <p>授業の概要</p> <p>教職課程で学んだ学習履歴を振り返り、教育実習や教育インターンシップ等で得られた教科指導や教育指導に関する実践知との統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導を備えた教師の力量を高め、教職課程の総括的な内容を中心に実践的研究と省察を通じて確認する。</p> |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：教職実践演習の目標と課題（担当：江口）</p> <p>第2回：各自の設定課題の報告と自己評価（担当：江口）</p> <p>第3回：4つの視点での省察と自己評価（担当：江口）</p> <p>第4回：自己評価に関する客観的な省察とまとめ（レポート提出）（担当：江口）</p> <p>第5回：学級経営の理解(1)今日的な学校教育の課題（教育委員会主事等の講話と質疑）（連絡担当：江口）</p> <p>第6回：学級経営の理解(2)教育実習校での学級経営方針の事例検討（担当：江口）</p> <p>第7回：学習指導の工夫(1)授業改善（教育実習時の研究授業の検討）（担当：教科教育法担当者、益谷、江口）（英語と社会の別クラス）</p> <p>第8回：学習指導の工夫(2)授業改善（ICTを活用した学習指導）（担当：益谷、江口）</p> <p>第9回：学習指導の工夫(3)教科単元とカリキュラム（教育実習校の事例検討と情報管理）（担当：益谷、江口）（英語と社会の別クラス）</p> <p>第10回：学習指導の工夫(4)総合的な学習の時間への取り組み（教育実習校の事例検討）（担当：江口）</p> <p>第11回：学習指導の工夫(5)特別の教科・道徳への取り組み（教育実習校の事例検討）（担当：江口）</p> <p>第12回：インクルーシブ教育の実現(1)合理的配慮（担当：江口）</p> <p>第13回：インクルーシブ教育の実現(2)ジェンダー（担当：江口）</p> <p>第14回：教員に必要な対人能力（組織人としての自覚と責任、保護者や地域社会との関係構築）（担当：益谷）</p> <p>第15回：教職の意義及び教員の社会的役割（教育委員会主事等の講話と質疑）（連絡担当：江口）</p> <p>※ゲストの日程調整によって実施回が前後することがある。</p> |
| <p>テキスト</p> <p>各自の教育実習ノート・教職課程履修カルテ（以上ポートフォリオ類）</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜演習内で案内する。</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>省察の取り組み、発表内容及びレポート等を総合的に担当者の合評により評価する。</p> |

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」を記載する。
- ※2 授業計画の立案にあたり、教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載し、そうでない場合は空欄とせずに「×」とする。